

事例⑨ 進路指導(学年運営)

高等学校

★ポイント

- 指導方法・指導内容の継承と課題の共有化に基づいた進路指導体制を構築し、組織力の向上を図るとともに、生徒や保護者の信頼を得る。
- コミュニケーションと協働による組織力の向上により、各教員のスキルアップやモチベーションアップと校内における人材育成を図る。

■関連する視点：視点2ー実践的なチーム編成 視点10ー継続・更新のための組織化

研修の計画

◇ 目的

前年度までの進路指導状況を分析し、有効な取組や課題を共通理解して、組織的な学年運営を行う。生徒の能力を充分伸ばせる指導方法を共有し、年度毎に指導方針が変わらないように指導体制の構築を図る。

◇ 所要時間 : 約 90 分

◇ 方法・形態 : 会議形式

◇ 対象者

- ・進路指導部（資料準備・司会進行・記録）
- ・卒業学年担任（説明者）
- ・新1学年担任（主受講者）
- ・2・3学年代表者（担当学年の現状分析・新1学年担任への助言）
- ・新規異動教員（勤務校の組織力の理解・継承）

*外部講師を招聘することもある。

◇ 事前準備

- ・卒業学年生徒の学力・進路希望にかかわる資料
 - 1年次：入学時の学力分布、進路希望調査結果、コース選択希望調査結果
 - 2年次：学力分布の推移、進路希望調査結果
 - 3年次：学力分布の推移、進路希望調査結果、進路結果データ
 - 全体を通して：進路研究（キャリア教育）実績（「総合的な学習の時間」の活動内容等）
- ・卒業学年担任による分析資料
- ・教育課程表・各教科別学習指導計画
- ・新1学年生徒の入学時の学力・進路希望にかかわる資料
 - （学力分布、新1学年生徒の学習状況調査結果、進路希望調査結果）

◇ 展 開

内容	担当者	概要及び留意点	資料
1 開会 (5分)	進路指導部	○研修の目的を説明する。	
2 報告Ⅰ (25分)	卒業学年主任 卒業学年担任	○データをもとに、卒業学年生徒の3か年の集団推移を報告する。 ○3年次のクラスごとに以下における指導上のポイントを報告する。 ・就職希望者対策 ・志望動機の形成、資格取得、面接・筆記試験対策 ・進学希望者対策 ・強化すべき科目の見極め、時期・方法の調整 ・推薦入試希望者の対応策 ・進路決定後の指導	・学力分布 ・進路希望調査結果 ・コース編成の動向 ・進路研究(キャリア教育)実績 ・進路結果
3 分析 (10分)	進路指導部	○過去2か年度との比較 進路希望調査と進路結果との対比	・進路希望調査結果 ・進路結果
4 質疑Ⅰ (10分)	新1学年担任、 2・3学年		
5 報告Ⅱ (15分)	卒業学年担任	○個別事例の検討 ・個人の動向(学力、進路志望など) ・個人別指導の成功例、失敗例 ・保護者の意向・面接指導のポイント	
6 質疑Ⅱ (10分)	新1学年担任、 2・3学年		
7 検討 (10分)	全参加者	○各学年団の3か年の教育課程・各教科別学習指導の課題を検討する。	・教育課程表 ・各教科別学習指導計画
8 閉会 (5分)	進路指導部	○議事のまとめと資料の保存について確認する。	・保存簿冊

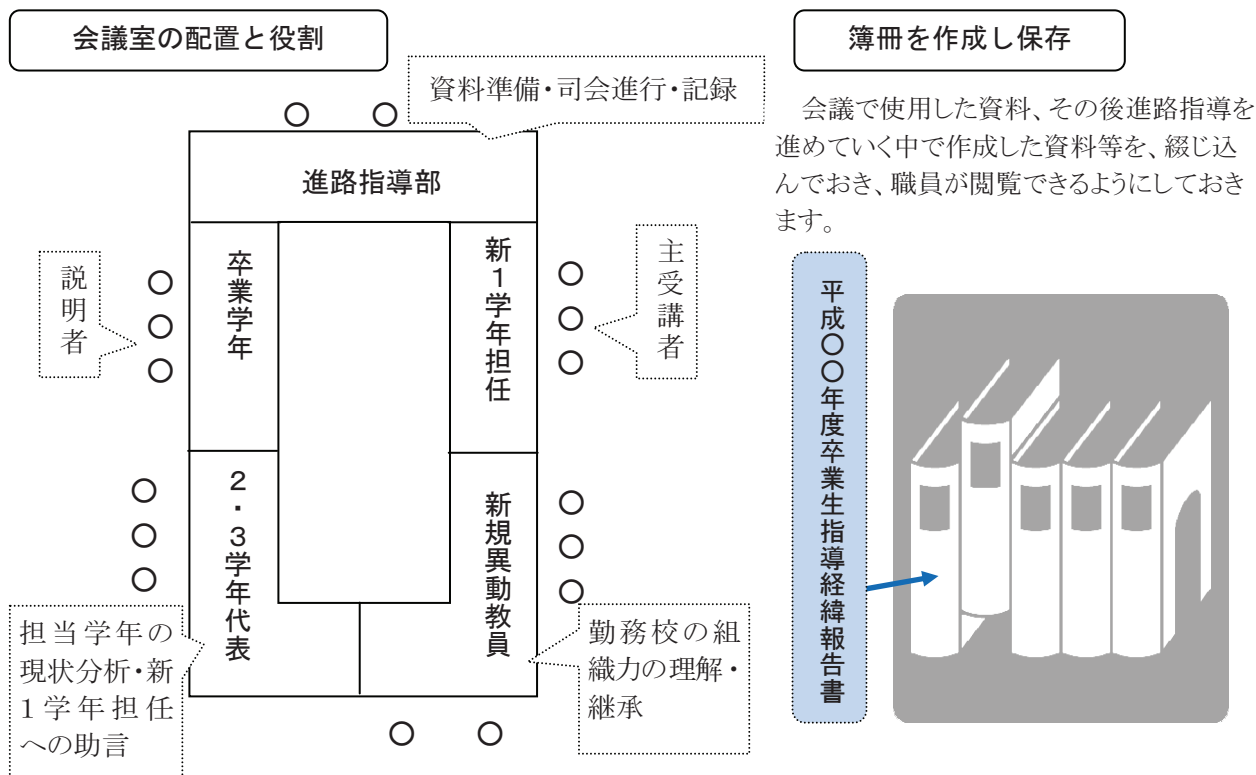
◇ 評 価

自校の進路指導等の方法・内容が共有できたか。

報告資料

卒業学年の各担任が、下記のような資料を作成して提示します。

<p>平成〇〇年度卒業生指導経緯報告書</p> <p><学年集団の推移></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力分布 ・進路希望調査結果 ・コース編成の動向 1年次・・・ 2年次・・・ 3年次・・・ 就職希望者指導 進学希望者指導 ・進路結果 	<p style="text-align: right;">□組担任 △△ △△</p> <p><個別事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の動向(学力、進路志望など) ・個人別指導の成功例、失敗例 ・保護者の意向 ・面接指導のポイント <p>Aさん・・・</p> <p>B君・・・</p> <p>Cさん・・・</p>
--	--



各担当における効果

担当	期待される効果
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3か年間を見通した指導方針の確立と各学年への指導助言の時期と内容を確認することができる。 ・ 資料の蓄積により、指導時期・内容の継承を図ることができる。 ・ 生徒の能力を十分に伸ばす指導方法の共有、年度毎にぶれない指導体制の構築を図ることができる。
卒業学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3か年間の指導時期・内容等を振り返り、資料をまとめることで、次の担当学年の指導に生かすことができる。
新1学年担任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3か年の学年運営に役立つ情報を得ることができる。 ・ 新入生の学力や進路志望等の傾向を把握し、特に1年次における指導の方針の共有と計画の立案をすることができる。
2・3年学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当学年の現状分析と運営方針の修正を図ることができる。
新規異動教員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自校の生徒の学力と進路に関する理解を図ることができる。 ・ 前任校までの経験を基に、現任校での校務遂行が円滑になる。

工夫

● 日常の実践につなげるには・・・

総合的な学習の時間に、キャリア教育の一環として進路探究学習を盛り込み、日常的に自己の進路について考える機会を設けます。全教員の協力体制の下、個々の教員が、それぞれの専門性や特性を發揮し合って指導に当たります。

- ・ 総合的な学習の時間の全体計画、年間指導計画、単元計画などを作成する。